

ミュージアム県 ながさき

07 History and Culture of Nagasaki
2018 Spring



【特集①】
ユネスコ「世界の記憶」
朝鮮通信使

【特集②】
祝・出島表門橋開通
長崎とオランダ

Information



長崎県美術館

〒850-0862 長崎市出島町2-1
☎ 095-833-2110
🕒 10:00~20:00(最終入場は30分前まで)
📅 第2、第4曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
🌐 <http://www.nagasaki-nmhc.jp/>
🐦 @nagasaki_museum



長崎歴史文化博物館

〒850-0007 長崎市立山1-1-1
☎ 095-818-8366
🕒 8:30~19:00(12~3月は、8:30~18:00)(最終入場は30分前まで)
📅 第3月曜日(祝日の場合は翌日) ※その他メンテナンスのため休館する場合があります
🌐 <http://www.nmhc.jp/>
🐦 @ngs_rekibun 📘 <http://www.facebook.com/rekibun/>



壱岐市立一支国博物館

〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴龜触515番地1
☎ 0920-45-2731
🕒 8:45~17:30(最終入館は30分前まで)
📅 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
※GWおよび夏休み期間中は無休 ※12月29日~31日休館
🌐 <http://www.iki-haku.jp/>



長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館 長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム

〒850-0921 長崎市松が枝町4-46
☎ 095-827-8746
🕒 9:00~17:00(最終入館20分前まで)
📅 第3月曜日(祝日の場合は翌日)
🌐 <http://www.nmhc.jp/museum/>

究める・つなげる「長崎の歴史」魅力発信事業 長崎を学ぶウェブサイト

長崎県歴史・文化ポータルサイト ながさき歴史・文化ネット

長崎県内のミュージアム(美術館、博物館、動植物園、水族館など)・文化ホールを施設分類やエリア、分野で検索する事ができ、各施設の基本情報のほか、展覧会や講演会などのイベント情報も見ることが出来ます。県内ミュージアムの見学やイベントをお調べの際にご活用ください。あわせて、各施設の専門家などによるコラム(月に1度更新)や、本情報誌など読み物もたくさん掲出しています。



表紙画像: 厳原祭り 2017年(対馬市提供) / 川原慶賀(唐蘭館絵巻)内蘭船入港図(部分) 文政朝頃 長崎歴史文化博物館蔵
究める・つなげる「長崎の歴史」魅力発信事業 ミュージアム県ながさき vol.7
©平成30年(2018)2月発行 ©企画・発行:長崎県文化観光国際部文化振興課
◎執筆:対馬市観光商工部文化交流・自然共生課博物館建設準備室、織田毅氏、北村沙緒里氏、稲葉友汰氏、
県文化振興課(佐野実、橋本正信、根ヶ山耕司、堤賢太郎、齋藤義明、百田成玉、才津哲也、伊藤晴子)
◎デザイン:株式会社ピーエス・クリエイティブ

無料アプリ ながさきミュージアム

長崎県文化振興課の公式アプリケーション。長崎県内のミュージアムや文化施設を完全網羅し、開催中のイベント情報や施設情報を確認できます。また、最旬のイベント情報をプッシュ通知でお知らせします。

App StoreまたはGoogle playで

旅する長崎学 TABINAGA

長崎県の歴史・文化をわかりやすく楽しく学び、歴史の旅に出かけたくなるような「歴史の旅と游学サイト」。「長崎Web学会」など最新の情報を随時掲載。



朝鮮通信使



長崎県には、歴史、民俗、美術、自然科学、産業などをテーマとした特色あるミュージアムが各地に数多くあります。本県では、これらのミュージアムを地域の大切な資源として、より魅力ある地域づくりの「て」とするため、各施設の活性化と施設間の連携を進めていく事業を推進してまいりました。本情報誌は、この事業の環として県内所在のミュージアム各館の魅力と取り組みを、さまざまな角度から皆様に広くご紹介することを目的とし2013年(平成25)2月に創刊しました。そして、5号からは、本県の特色ある歴史・文化の掘り下げや発信事業と体化し「究める」なげる『長崎の歴史』魅力発信事業」としてリニューアルいたしました。

本情報誌を、ポータルサイト「ながさき歴史・文化ネット」(<http://nagasaki-bunkanet.jp>)とあわせて、県民の皆様をはじめ、県外から観光等でお越しになられる皆様に気軽にご利用いただけましたら幸いです。

2018年(平成30)2月 長崎県文化観光国際部
文化振興課



厳原港祭り2017年 画像提供:対馬市

朝鮮通信使とその記録

朝鮮通信使とは、日本の江戸幕府の招きに応じて12回(1607年「慶長12」～1811年「文化8」)、朝鮮国から日本国へ派遣された外交使節のことです。彼らは、16

目次

1	特集① ユネスコ「世界の記憶」
5	朝鮮通信使
6	祝・出島表門橋開通
8	長崎とオランダ
9	寄稿「シーボルト記念館について」
10	ここに注目! 長崎とオランダをめぐる歴史と文化を深く知るマンガで読んでみんね! 長崎
12	連載
13	ミュージアムの人々①
14	ミュージアムの人々②
15	寄稿「ミュージアム逸品紹介①」
16	寄稿「ミュージアム逸品紹介②」
17	自慢の体験プログラム① たびら昆虫館
18	自慢の体験プログラム② 珊瑚資料館
19	建物探訪原の辻二支国王都復元公園
20	スペシャル・トピックス 隠元禪師の足跡を辿る黄檗文化交流 ながさき歴史・文化トピックス

世紀末に豊臣秀吉が朝鮮国に出兵したために途絶した国交を回復し、「両国の平和的な関係を再構築することに大きく貢献」しました。

朝鮮通信使に関する記録は、外交記録、旅程の記録、文化交流の記録からなる総合資産であり、朝鮮通信使が往来する両国の相互理解を深め、外交のみならず学術、芸術、文化などのさまざまな分野において活発に交流がなされたことを示すものです。

ゆえに、朝鮮通信使の記録は「恒久的な平和共存関係と異文化尊重を志向する人類共通の課題を解決するもの」として、顕著で普遍的な価値を有している」と考えられています。

※「内は」ユネスコ世界記憶遺産登録申請書
(NPO)法人朝鮮通信使継地連絡協議会ホームページ
URL: <http://enchiin.com/kokuisan/shinse/>
以下同。本文を丸く囲ったものを参照してください。



厳原港祭り2017年 画像提供:対馬市



外交記録

「朝鮮国書」は、徳川将軍が朝鮮通信使から受け取った朝鮮国王名の国書と別幅(進物目録)で構成されています。

そのなかでも、1607年(慶長12)と1617年(元和3)の朝鮮通信使が携行した国書は、両国の対外的な主張の衝突を回避し、断絶した国交の回復を急ぐ対馬藩によって改作されたものでありながら、現実的には外交文書としての機能を果たしており、特異な形で再開された日朝の国交回復のあり方を示すものとして重要です。

その他の国書には「両国間の友好を願う朝鮮国王の意思」がそのまま表れており、「朝鮮通信使による両国の平和構築と維持のための相互努力」がみてとれます。



広渡雪之進「馬上才(ばじょうさい)図巻」18世紀 個人蔵



広渡雪之進「馬上才(ばじょうさい)図巻」18世紀 個人蔵 朝鮮通信使に随行した馬術師(馬上才)の曲芸。徳川将軍家が特に来日を熱望したものであり、将軍上覧ののち江戸の民衆にも見物がゆるされた。



「朝鮮国書」1607年[慶長12] 京都大学総合博物館所蔵

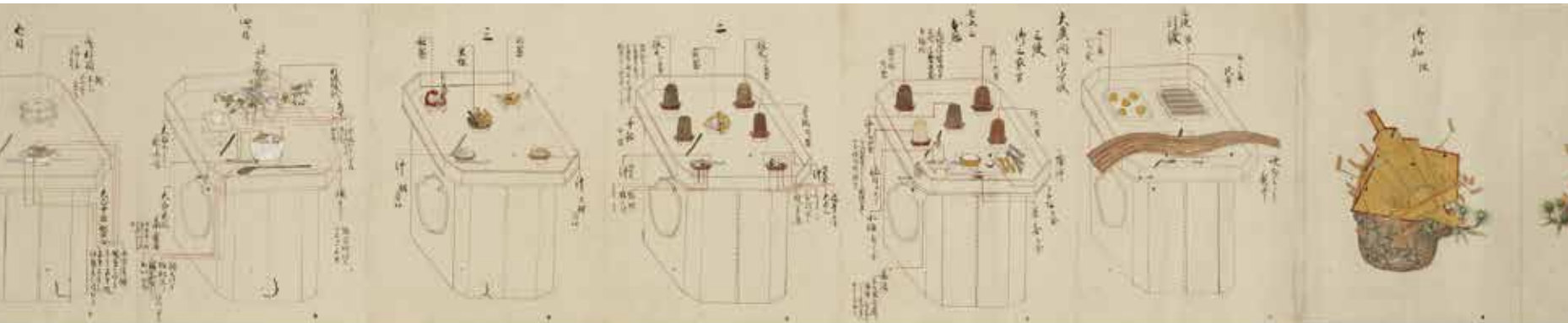


「朝鮮国書別幅」1617年[元和3] 京都大学総合博物館所蔵

旅程の記録

旅程の記録には、供応記録や、記録画があります。

供応記録には、日本における朝鮮通信使の動向及び日本側の対応などが事細かに記述されています。記録画の中には、朝鮮通信使を間近に見物した群衆が作成したものもあり、そこには通信使に対する民衆の驚きや歓迎ぶりが人間味あふれるユーモラスな筆致で絵画とともに記述されています。



「七五三盛付繰上順之絵図(しちごさんもりつけくりだしじゅんのえず)」18世紀 長崎県立対馬歴史民俗資料館所蔵 1763年(宝暦13)~1764年(宝暦14)の朝鮮通信使が江戸城にて徳川将軍家からふるまわれた料理。七五三料理は、当時の日本で、最高の格式を誇った。



「朝鮮国信使絵巻(文化度)」1811年 長崎県立対馬歴史民俗資料館所蔵 1811年(文化8)の朝鮮通信使を描いたもの。(前頁より続く)

文化交流の記録

朝鮮通信使が往来することにより、一行と日本人の間で儒学や医学をはじめ、さまざまな分野で活発な交流が行われました。両国は共に漢字文化圏に属していたため、交流は円滑になされ、その成果として筆談唱和集、詩文、書画などが数多く作成されました。

誠信外交

朝鮮交接の儀は、第一に人情・事勢を知り候事、肝要にて候。互いに欺かず争わず、真実を以て交わり候を、誠信とは申し候。

これは、対馬藩に仕えていた儒学者にして外交官である雨森芳洲（1668年「寛文8」〜1755年「宝暦5」）の言葉です。芳洲は、国によって風習も嗜好も異なるので、日本側の価値基準だけで接してはならず、相手の国のことをよく理解し、尊重し、まごころ（誠信）をもって対話すべきだと考えていました。

文化の発展に朝鮮通信使が寄与していたことを証明するもの」です。

ユネスコ「世界の記憶」登録までの活動



パリPR事業 2016年

NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会と財団法人釜山文化財団は、朝鮮通信使に関する記録をユネスコ「世界の記憶」に登録するため、2014年6月21日に朝鮮通信使ユネスコ日本学術委員会を設立しました。

朝鮮通信使の記録物について、日韓二つの民間団体では「現在も戦争と葛藤を越えて人類の平和的な共存と交流を追求する上で、模範的なテキストになることができる」と考え、ユネスコ「世界の記憶」への登録に向けて様々な活動を行いました。2017年10月31日に実現されました。



第11回学術会議 2016年 画像提供：対馬市



「朝鮮通信使」佐世保パネル展 2017年

※「内」は「朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産 日本学術委員会 仲馬委員長の経過報告」(NPO)法人朝鮮通信使縁地連絡協議会ホームページ URL: <http://enchien.com/kokuisan/katsudou/>より。

対馬市 対馬博物館 (仮称) 建設に向けて

対馬市観光商工部文化交流・自然共生課博物館建設推進室

対馬はいにしえより日本と大陸をつなぐ役割を果たしてきました。日本列島と朝鮮半島との人的・物的交流により繁栄した歴史があり、その地理的特性によつて生み出され、育まれた歴史文化遺産が古代から現代に至るまで数多く残されています。そのような対馬の歴史や文化と魅力を国内外へ発信するため、対馬市対馬博物館(仮称)(以下、「博物館」)の建設を進めています。

建設予定地は、国指定史跡「金石城跡」に隣接し、周囲には「対

整備方針

また、博物館に多くの市民が集うよう、市民も利用できる多目的室や市民交流展示室等を設置するとともに、対馬の子どもたちが対馬の歴史や文化を学ぶことができ、郷土愛や自信を育む場となるよう整備していきます。

最終完成予想図 画像提供：対馬市



- 博物館建設概要**
- 設置場所：対馬市厳原町今屋敷地内
 - 建物構造：鉄筋コンクリート造り一部鉄骨造、2階建て(一部3階部分あり)
 - 延床面積：約5,000㎡(約1,500坪)
 - 工期：平成29年12月～平成32年3月

- 展示のコンセプト**
- 大陸や日本本土と対馬の交流について学べる展示
 - 自然・歴史・文化など対馬の独自性・重要性を体感できる展示
 - 歴史・民俗・考古・美術工芸等資料の通史による展示
 - 「宗家関係資料」や「朝鮮通信使関係資料」を活用した展示
 - 外国人観光客にも対応した展示

県立対馬歴史研究センター(仮称)との一体的な整備

建設予定地には、現在、「宗家関係資料」(国重要文化財)などの歴史資料の調査・研究機関である県立対馬歴史民俗資料館がありますが、開館してから約40年が経過し、施設・設備の老朽化、収蔵庫の狭あい化などが課題となっていました。

そのため、県は、市の博物館整備に併せて、県立対馬歴史民俗資料館の役割を引き継ぐ「対馬歴史研究センター(仮称)」を対馬博物館(仮称)と一体的に整備を行うこととしております。

長崎とオランダ

祝・出島表門橋開通
【特集②】

2017年(平成29)11月24日、出島表門橋が開通し、約130年ぶりに出島と長崎のまちが橋でつながりました。当日は、日蘭協会の名誉総裁でもあられる秋篠宮同妃兩殿下とオランダ王室のローレンティン妃殿下もご臨席され、式典がとり行われました。

これまでは荷揚げなどが行なわれていた水門がメインゲートでしたが、江戸町(長崎奉行所西役所方面)から橋を渡り表門を通って出島に入室することで出島がオランダ商館として機能していた当時の姿を、より具体的にイメージすることができるようになりました。



石垣船塀(長崎商館跡)南留館(部分)1801年(長崎歴史文化博物館蔵)

オランダ船、平戸に入港



長崎歴史文化博物館「平戸和蘭博物館跡」復元建群
平戸オランダ商館跡 海軍艦隊・平戸市

長崎とオランダとの交流は、1609年(慶長14)にオランダ船2隻が、海上交通の要衝であった平戸に入港したことに始まります。松浦鎮信(法印)によって歓迎され、徳川将軍家からも朱印状(公式の通行許可状)を得ることができ、平戸オランダ商館が設立されました。平戸オランダ商館では次々に倉庫等が拡張されていき、その中の1639年(寛永16)に建設された日本初の西洋式の石造倉庫は、外壁に西暦が記されていることがキリスト教禁令に触れる等の理由から、わずか一年で破壊されるという事件もありました。

現在もなお、商館の敷地の境界に建てられていたオランダ塀、オランダ井戸、帆船が荷を降ろしていた埠頭、商館の規模拡大毎の埋め立てで造

成された石垣等の関連遺構が残っており、2011年には発掘調査の成果等に基づいて石造倉庫が「平戸和蘭商館跡」復元建物として復元され、平戸観光の中心的施設として注目を集めています。

平戸の繁栄とオランダ商館の移設

一方、長崎では、「出島町人」と称される豪商25名の共同出資によって、2年の歳月をかけて、1636年(寛永13)にポルトガル人を集住させるための約1万5千㎡の扇形の人工島が築造されました。しかし、その直後の1639年(寛永16)にポルトガル船の日本来航が全面的に禁止されたことから、貿易の機会を失った出島町人は幕府に嘆願し、1641年(寛永18)に平戸のオランダ商館(オランダ東インド会



川島重英(出島町)江戸時代住居
長崎歴史文化博物館蔵

社)が出島に移設されることとなりました。以降、1859年(安政6)の開国までの200年以上の間、出島は、日本と西洋とをつなぐ唯一の窓口となりました。

西洋を知る、日本を知る

日本からは、時代によって変わりますが金・銀・銅などのほか、陶磁器や漆工芸品等の美術工芸品も多数ヨーロッパへと輸出され、それらはヨーロッパ各地の王侯貴族が愛好するものとなり宮殿等を美しく飾っていきました。オランダからは織物類・砂糖・薬種などがもたらされました。オランダは日本と交易を行うだけでなく、絵画等の芸術文化や、オランダ商館の医師等を介して西洋の学問等も日本に伝えました。そして将軍に対して貿易に対する敬意を示すために、オランダ商館長は、長崎の出島から江戸まで往復100日前



出島で洋風インテリア装束などの陳列が展示され、当時の寛政時出島での生活の様子を再現されています。



其間名徳画(文政安政)
[開創社人]江戸時代史料
長崎歴史文化博物館蔵

や遊興の様子等の風俗が数多くの絵画として記録され、さらに土産用の木版画(長崎古版画)や古賀人形等として広く普及していきました。

出島の終焉、そして未来へ

開国後、出島は使命を終え、河川工事や周辺の埋立て工事が行なわれた結果、美しい扇形が失われていきました。長崎市は、戦後1951年(昭和26)から出島の整備事業に取り組み、1996年(平成8)からは、19世紀初頭の姿に復元する計画が進められ、カピタン部屋などの建造物の復元等が完成しています。その一環として、2017年(平成29)11月、出島の表門橋が完成しました。



出島(国指定史跡「出島和蘭商館跡」)

- ☎ 〒850-0862 長崎市出島町6-1
- ☎ 095-821-7200
- 🕒 8:00-21:00(入場は20分前まで)
- 📅 年中無休
- 🎫 一般510(410)円、高校生200(120)円、小中学生100(60)円ほか
- ※()内は20名以上の団体料金

国指定史跡「平戸和蘭商館跡」復元建物 平戸オランダ商館

- ☎ 〒859-5102 平戸市大久保町2477
- ☎ 0950-26-0636
- 🕒 8:30-17:30
- 📅 6月第3火・水・木曜日
- 🎫 松浦史料博物館との共通入場料 大人650(600)円、小中高生350(350)円
- ※()内は20名以上の団体料金

ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団長崎公演開催



出島表門橋を400年以上の歴史をもつ日蘭交流の新たな交流を生み出す架け橋と捉え、表門橋開通を記念して、平成29年11月23日に世界屈指のオーケストラであるロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団のコンサートが開催されました。

主催:ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団長崎公演実行委員会
共催:長崎県、長崎市、オランダ王国大使館

ここにも注目! 長崎とオランダをめぐる歴史と文化を深く知る

オランダ人墓地(長崎市 悟真寺)



稲佐山のふもとにある悟真寺は、1598年(慶長3)創建の浄土宗の寺院です。中国人墓地が設けられていたことから、後にオランダ人も葬られることとなりました。同寺院の「オランダ人墓地」には現在41基の墓碑が確認できます。1654年(承応3)ハプリール・ハッパルト商館長が陸上埋葬を長崎奉行に懇願し許可を得、1870年までオランダ人や出島オランダ商館員が葬られました。中でも、1778年夏に2度目の出島オランダ商館長として赴任する洋上で歿したヘンドリック・ホットフリード・デュルコープ(1736-1778)の墓碑は、全長2m80cmを超え、日本に現存する最古の西洋人墓碑として知られています。同墓碑は、当時の知識人の間でも注目されました。上部にはロシア人墓地があります。

※墓域内無断立入禁止。
長崎さるく(ガイドツアー)お申込みでご案内しております。
長崎さるく受付 TEL.095-811-0369
http://www.saruku.info/

松浦史料博物館



画像提供: 松浦史料博物館

領主松浦鎮信(法印)によるポルトガル船との交易や、オランダ商館招致等、対外貿易を盛んに行なった平戸藩主松浦家に伝来した資料のほか、指折りの知識人としても知られた松浦静山が蒐集した国内外の貴重な文物等が保存・公開されています。彼の随筆『甲子夜話』は、時代劇の考証に欠かせません。

- 所 〒859-5152 平戸市鏡川町12
- 電 0950-22-2236
- 時 8:30~17:30
- 休 12月29日~1月1日
- 料 大人510(410)円、高校生300(240)円、小中生350(160)円ほか
- ※()内は20名以上の団体料金

長崎歴史文化博物館



近世海外交流史を中心として長崎の歴史や文化を紹介する常設展示室では、「長崎貿易」「オランダとの交流~出島と蘭学~」コーナー等で、オランダとの交易、もたらされた文化等を展示しています。

- 所 〒850-0007 長崎市立山1-1-1
- 電 095-818-8366
- 時 4月~11月 8:30~19:00、12月~3月 8:30~18:00
- 休 第3月曜日
- (祝日の場合は翌日、メンテナンスのため休館することがあります)
- 料 常設展/600(480)円、小中高生300(240)円
- ※()内は15名以上の団体料金

旧島原藩薬園跡(国指定史跡)



画像提供: 島原市

島原藩によって眉山のふもとにつくられた御薬園跡。藩は、はじめ1842年(天保13)シーボルトの門人・賀来佐之を招き、城内にあった藩の医学学校「済衆館」の薬園に薬草を栽培させましたが、手狭だったため、1846年(弘化3)現在の地に薬園を開墾しました。

- 所 〒855-0856 島原市小山町4703
- 電 0957-63-4853
- 時 9:30~16:30
- 休 12月29日~1月3日、8月14日・15日
- 料 無料



シーボルト記念館について

シーボルト記念館長 織田毅さん

ドイツ人医師・博物学者のフリーリップ・フランツ・フォン・シーボルト(1796~1866)は、江戸時代の日本に西洋医学や博物学を伝え、科学的な総合調査にもとづきヨーロッパに日本を広く紹介しました。



シーボルト記念館

は、日本の近代化に貢献したシーボルトを顕彰するために長崎市が設置したもので、平成元年(1989)10月1日に開館しました。国指定史跡シーボルト宅跡(鳴滝塾跡)に隣接しており、建物の外観はオランダ・ライデン市のシーボルト旧宅を、玄関はシーボルトの祖父カール・カスバル宅をイメージしたものです。

1階ホール・ロビーでは、映像でシーボルトの生涯を簡単に紹介しています(ドクトル・フォン・シーボルト)上映時間約12分)。2階常設展示室では、シーボルトの生涯を6つのコーナーに分けて紹介しています。3階企画展室では、年に数回の企画・特別展を開催しています(平成29年度は、企画展「シーボルトとオタクサ」、特別展「長崎の游学者たち」高野長英から坂本龍馬まで)を開催)。吹き抜けの壁面では、シーボルト家の紋章をステンドグラスとレリーフで表現しています。また、普及活動の一環として、毎年市民を対象としたシーボルト学習

会を開催しています(平成29年度は「資料にみる楠本いねの生涯」。その他にも、シーボルトゆかりのドイツ・ヴュルツブルク市のシーボルト博物館と姉妹館を、オランダ・ライデン市のシーボルトハウス日本博物館とは友好館提携をそれぞれ締結し交流を図っています。

本館の所蔵資料は約3600点。その中には、国指定重要文化財の「フイリップ・フランツ・フォン・シーボルト関係資料(40点)や、代々長崎の阿蘭陀通詞をつとめた中山家資料(川原慶賀筆中山作三郎肖像画、風説書など約1000点)などが含まれています。また、シーボルトの三浦作とされる『日本(ニッポン)』『日本植物誌』『日本動物誌』の初版本等も所蔵しています。

29年度は、企画展「シーボルトとオタクサ」、特別展「長崎の游学者たち」高野長英から坂本龍馬まで)を開催)。吹き抜けの壁面では、シーボルト家の紋章をステンドグラスとレリーフで表現しています。また、普及活動の一環として、毎年市民を対象としたシーボルト学習

シーボルト記念館

- 所 〒850-0011 長崎市鳴滝2-7-40
- 電 095-823-0707
- 時 9:00~17:00(入館は16:30まで)
- 休 毎週月曜日、12月29日~1月3日
- 料 一般100円、小中学生50円

中央:国重要文化財 シーボルト夫妻像螺鈿合子(たき像)

マンガで

読んでみんなね! 長崎

日本最西端の県・長崎県には、古より海を越えて多くの人々が往来しました。県内きる異国情緒あふれるスポットが数多くのこされています。このような歴史や文化の自然など、本県は様々な魅力で満ち溢れており、多くの芸術家を惹きつけてきました。現代を代表するポップカルチャーの一つであるマンガの領域においても、本県の数多く生み出されています。

今回は、それらの作品の中から、近年制作された作品とその舞台となった場所を

には、今もなお、文化の往来を偲ぶことのでみならず、美しい海をはじめとするゆたかなた。人気は高く、県内各所を舞台とした作品がご紹介しします。

「描いてみんなね! 長崎」事業

本県では、幅広い世代、さまざまな嗜好の読者を有するマンガ、小説等を通じて、本県の魅力を広く知っていただくことを目指すプロジェクトに取り組んでいます。平成28年度から、マンガ家の皆さん等を長崎取材旅行へご招待し、作品創作の支援、そして、完成した作品のPR等を行っています。作品を契機とし、読者の皆さんにも、「聖地巡礼」として本県を実際に訪れていただきたいと思います。

ながさき旅ネット | ながさき旅ネットでは、『アンゴルモア』、『終電ちゃん』、『オリオリスープ』のモデルコースを紹介しています。 <https://www.nagasaki-tabinet.com/course/>

「描いてみんなね! 長崎」事業

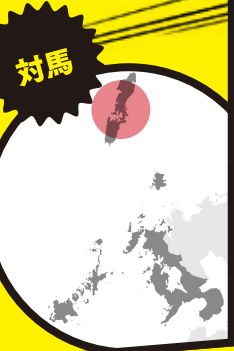


バン

元寇合戦記
アンゴルモア

九州と朝鮮半島とを結ぶ航路上に位置する対馬は朝鮮通信使を迎える窓口になるなど、日本と大陸をつなぐ要衝でありました。言い換えれば、他国からの脅威も真っ先に受ける場所に位置する島でもあったのです。

本作は、かつて日本全土を震撼させた二度の「元寇」のうち「文永の役」(1274年)の、対馬における蒙古軍との戦いを描いたものです。対馬の雄大な自然とロマンあふれる歴史的建造物がたくさん描かれています。



佐世保

ときは1960年代、当時流行していたモダンジャズの魅力に取り付かれた高校生たちの青春を描いた作品です(ビートルズやベンチャーズも少しだけ出てきます)。2012年(平成24)にアニメ化され、2018年(平成30)には実写映画が公開される予定です。

本作の舞台は佐世保市。眼鏡岩や九十九島など、名シーンの舞台の多くが今も訪問可能です。

坂道のアポロン

ポロロン♪



平戸松浦

ルルルル

最終電車を路線ごとに擬人化したキャラクターが終電ちゃん。本作は、そんな終電ちゃんたちを主人公に、乗客たちの人間ドラマをコミカルかつ叙情的に描いた作品です。

第14話「長崎の終電ちゃん」では、JR佐世保線、松浦鉄道沿線の終電ちゃんが登場。福井川橋梁や普通鉄道日本最西端の駅である「たびら平戸口駅」などの鉄道名所も描かれています。



「描いてみんなね! 長崎」事業



五島

ばらかもん

五島市を舞台に、都会育ちの青年書道家と島の子供たちの交流を描いた作品です。「ばらかもん」とは五島の方言で「元氣者」という意味です。2014年(平成26)にはアニメ化されました。

美しい海はもちろん、サイクリングロードや地元のお店街など、五島に行ったことがある人が見ればニヤリとすること間違いなし。電子書籍版を片手に「聖地」探しなどができそうですか?



オリオリスープ

ズズツ

主人公の原田織エは本の装丁などを扱うデザイナー。激務の彼女を癒すのは、四季折々の食材を活かしたスープでした。第45話「Picado」では、長崎の郷土料理「ヒカド」が登場します。さつまいもでとろみをつけた具だくさんのスープです。見ているだけでお腹が空いてきます。

ヒカドのほか、眼鏡橋や大浦天主堂など、長崎市内の代表的な名所も描かれています。



オオオオ

島原

サンチャゴ
—レベリオン・シマバラ—

徳川幕府初期、島原では不作の年が続くも年貢の取り立ては厳しく、村民は大変苦しんでいました。やがて彼らはキリスト教を心のよりどころとした一揆を起こします。本作は、その日本史上最大規模の一揆である「島原の乱」(島原・天草一揆)を描いた作品です。

乱の拠点であった原城跡は、世界文化遺産候補「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産のひとつでもあります。





コスモス花宇宙館全景



コスモス花宇宙館副館長
岡部一樹さん
第2回長崎県学芸功労賞(普及部門)受賞

ミュージアムの人々 その2

いつでも“おかえり”といえる施設であり続けたい

諫早市内から車で約30分、五家原岳中腹に位置する白木峰高原の一角に宇宙船を思わせる銀色の建物があります。それがコスモス花宇宙館です。諫早平野から普賢岳まで一望に見渡すことができるこの施設は、近年、文化・芸術の発信基地として、諫早市内はもとより県内外からも注目が集まっています。その立役者が副館長の岡部一樹さんです。

ことのないような世界ですが、コスモス宇宙館ではそれが見事に一体化し、具現化されていることに驚かされます。それが岡部さんの手腕に負う部分大きいことは誰もが認めるところです。

岡部さんは館の魅力は「コスモス」という言葉に集約されていると語ります。コスモス(cosmos)は、も



4階に設置された天体観測室 屋根は開閉式



展示ホール(2階) 諫早市出身の画家 故荒木幸史氏のコスモスをテーマにした作品を展示

岡部さんは大学卒業後、一般企業を経て、フランスへ留学という異色の経歴の持ち主です。フランスでは最先端の芸術や文化、哲学などに触れ感性を磨き、そ

の多様性と可能性を吸収して帰国されました。そのご経験が各ジャンルを自在に横断する今の仕事のベースになっているのでしょう。岡部さんが館に来られて以来、企画し開催したイベントは実に多岐におよび、マスコミにも取り上げられ話題になりました。芸術と天体、一見交わる

ちろん白木峰高原を象徴する花であり、その語源をたどるとギリシア語の「コスモ=宇宙・秩序」までさかのぼります。まさに大自然のなかで芸術と宇宙に触れることができる館を象徴する言葉だと言えます。

岡部さんに、館に対する思い、今後の館での展開と構想について聞いてみました。

「市民の方々、特に子どもたちの幼少時の感動や発見の体験の場としてあり続けることは館の重要な使命だと考えています。ここが皆さんの第二の故郷となっていただけた

ならこれに勝る喜びはありません。いつでも“おかえり”といえる施設であり続けたいと思っています。今後は地元施設との連携を強化し量・質ともに発展させていき、自治体に限らず市外さらには福岡等、県外の施設との連携も模索中です。さらに大自然に囲まれた絶景を誇る立地環境をいかした海外からの集客も展望に入れ、多言語による情報発信(フランス語・英語他)も検討しています。今後は周囲が一望できるホールも活用していきたいと思っています」と、溢れんばかりのアイデアをお伺いすることができました。岡部さんがこの館でどのような新しい世界を我々に見せてくれるのか、引き続き注目していきたいと思います。



〒859-0307 諫早市白木峰町828-1
☎ 0957-23-9003
🕒 ④~⑥10:00~20:00 ⑦~⑩10:00~22:00
🗓 月曜日、年末年始(12月29日~1月3日)



大村市立史料館学芸員
(大村市教育委員会文化振興課)
山下和秀さん
第2回長崎県学芸功労賞(学術部門)受賞

ミュージアムの人々 その1

地域に残された資料を いかに後世に残すか



大村市立史料館 2017年9月末に休館



展示室では休館前最後の企画展「史料でたどる大村家の歩み」がおこなわれていました

大村駅から徒歩約5分、大村市立史料館の山下和秀学芸員は大村生まれの大村育ち。知識と経験が豊富な郷土愛あふれる学芸員です。幼いころより歴史に親しんできた山下学芸員は地元の高校を卒業後、大学では歴史学(日本中世史)を専攻されました。学生時代に島根県の古代文化センターで古文書を解読するアルバイトを経験し、本物の史料に触れたことをきっかけにその面白さに目覚め、歴史に関係する仕事がしたいという思いを強くされたそうです。平成21年に大村市に戻り現職に就かれ、史料館担当として資料の整理などに携わられたら、市内

の児童生徒を対象とする「郷土史クラブ」を担当するなど教育普及活動にも力を尽くされています。

大村市立史料館では年に三回程度の割合で独自の企画展や特別展を実施されてきており、昨年度山下学芸員が学芸功労賞を受賞された理由が、平成27年度に実施された『「軍都」大村の歩みと市民〜回顧1896-1945〜』という特別展をプロデュースされたことでした。その企画自体は大村市の学芸員の総意として、戦後70年にあたって何か行わないといけないという強い使命感からはじまったそうです。「近代大村



「軍都」大村の歩みと市民パンフレット

の都市形成の過程を軍の施設とともに見通していく」という展示の大筋が決まると、約1年かけて入念に準備を進められ開催にまで漕ぎつけられました。市民からの反響も大きく「この時代のことを語り継いでいかないといけない」という声も聞かれる一方、当時のことを覚えておられる方の記憶と実際の資料をもとに紹介することとの

捉え方の相違もあり、近現代をテーマにする難しさを感じたともいいます。最終的には過去最高の入場者数には及ばなかったものの、近年では多くの来場者を集めた企画展となりました。また同時に作成されたパンフレットも単に展示物を紹介するだけでなく、ひとつの出版物としても成立するほどの丁寧な編集がなされており高い

評価を受けました。最後に山下学芸員に今後の活動について聞いてみると「地域の博物館の使命は残された資料をいかに後世に残すか、そして資料の価値をいかに伝え、情報を発信して

いくことに尽きます」という頼もしい答えが返ってきました。残念ながら大村市立史料館は建て替えにともないしばらくの間休館になります(平成31年度県立・大村市立一体型図書館内に「大村市歴史資料館(仮称)」として開館予定)が、新しい拠点を得た山下学芸員の今後のご活躍が楽しみです。

その1 ミュージアム 逸品紹介

長崎市遠藤周作文学館

学芸員
北村沙緒里さん

遠藤周作は、12歳の時に母親のすすめで洗礼を受けました。若き日より、自らの信仰に葛藤し、その文学



『沈黙』の世界をイメージしたステンドグラス

る主人公のポルトガル人司祭ロドリゴは、役人による日本人信徒への苛酷な弾圧の前に、「神の沈黙」を問い、自らの信仰に悩み苦しみます。

昭和41年に新潮社から刊行された書下ろし長篇作品です。長崎で潜伏

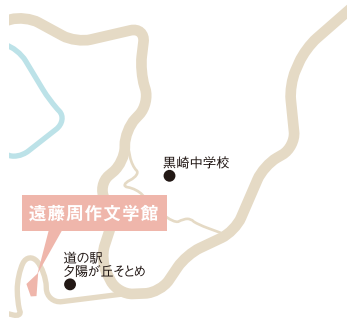
しかし、最後に踏絵を前にした司祭に語りかけてくるのは、「踏むがいい。お前の足の痛さをこの私が一番よく知っている」と、母のような優しさで赦しを与える母性的な神の声でした。『沈黙』は、遠藤自身の過半生で背負ってきた信仰上の問いに対する、一つの答えを見出した代表作となりました。その『沈黙』の創作過程を今に伝える一級の品が、『沈黙』の草稿です。まず遠藤が純文学作品を書く時の執筆スタイルがあります。純文学を書く時の多くは、原稿用紙を裏返しに使用し、裏面に細かい小さな字で書きました。これは、他のジャンル作品（チセイ、新聞連載小説等）には見られない執筆の特徴です。万年筆ではなくB3程度の濃い目の鉛筆を使用しました。赤のボールペンで訂正を入

れ、次に秘書やアルバイトに清書させ、自分の文章を客観的に読み直し、さらに加筆修正を加える。そして最後は、自らによる朗読をテープに吹き込み、文章のリズムを聞いて確認するという手順です。『沈黙』の草稿は、これまで遠藤自身の証言により、失われた原稿とされてきました。ところが、平成12年に外海町立遠藤周作文学館（現在・長崎市）が開館し、3万点を超える寄託資料の中から、直筆草稿22枚、清書草稿（複写）375枚、ゲラ刷り274枚が発見され、『沈黙』執筆の思索の跡が明らかとなりました。『沈黙』の草稿は、この作品で遠藤

が最も描きたった「キリストの顔の変化」を、執筆の途中で加筆していたことを示す貴重な資料で、キリス



直筆草稿『沈黙』



- 〒851-2327 長崎県長崎市東出津町77番地
- ☎ 0959-37-6011
- 🕒 9:00～17:00
- 📅 12月29日～1月3日
- 👤 一般 個人360円、団体250円
小・中・高生 個人200円、団体100円



作の代表作『沈黙』の舞台に開館し、訪れた人を圧倒的な物語の世界へと誘うロケーションを有しています。遺族から寄託された直筆原稿、ノート、愛用品をはじめ約3万点の遠藤周作に関する資料を収蔵しています。小説家としての遠藤周作や遊びの達人としての「狐狸庵（こりあん）先生」など、様々な遠藤周作の顔に触れる展示を行っています。

ト教と日本人の精神風土との越えがたい距離感を埋めようと模索した、作家の強い意志を感じさせる希少な逸品です。

その2 ミュージアム 逸品紹介

長崎県美術館

学芸員
稲葉友汰さん



フランシスコ・デ・ゴヤ
『ロス・カプリチオス』初版 1799年 長崎県美術館蔵

揮い、ついにその10年後、念願の首席宮廷画家の座を手にしたのです。ただ、彼は宮廷で揺るがぬ地位を築く一方、1792年に患った大病により聴覚を喪失する

スペイン絵画の巨匠フランシスコ・デ・ゴヤ（1746-1828）が後世に残す豊饒な作品群は、その総体をもって、彼の芸術の驚くべき二面性を私たちに示してきました。というのも彼の画業は、スペイン宮廷における華々しい経歴を彩る公的な注文に基づくもの自身「奇想」や「創意」を羽ばたかせたプライベートな性質を帯びたものに大きく二分できるのです。

そもそも彼は画家としての名声を希求し、時には私費でイタリアへ遊学することも辞さない確固たる意志のもとスペイン画壇の頂点を目指しました。1789年に宮廷画家へ任ぜられると、王族や有力貴族のために彩管を

た。とりわけこの寂然たる世界との邂逅が自身の内省的傾向を強めたのか、以後、彼は宮廷での職務を遂行する傍ら、私的な作品制作に没頭するようになります。そしてそのプライベートな制作は彼の手がけた版画集に結実していきました。ゴヤはまた版画制作の名手でもあったのです。

ここで紹介するのは、彼が初めて刊行した銅版画集『ロス・カプリチオス（気まぐれ）』（全80枚）です。1799年2月6日にマドリッド市内で販売された初版は2日間で27部を売り上げた後、何らかの理由により販売が取りやめられました。この出来事は、おそらくこの版画集の



フランシスコ・デ・ゴヤ
『ロス・カプリチオス』第39番（祖父の代までも）

根底に存在する彼の鋭敏かつ強靱な批判精神に起因すると考えられます。当時の新聞に掲載された広告文が示すように、彼はこの版画集で、当時のスペインにおける様々な悪徳と悪習、無知な人々、墮落した貴族や聖職者たちの姿を告発したのです。例えば、第39番『祖父の代までも』では、ヨーロッパにおいて伝統的な愚鈍のシンボルであるロバを貴族に見立て、自らの血統に固執する彼らの愚かさを批判しています。このような強烈な批判精神は、ゴヤの私的な制作を読み解くための重要なキーワードですが、それは当時スペイン社会を嚴重に監視していた異端審問所の告発対象ともなりえた諸刃の剣でした。彼は自身が異端者として咎められるのを恐れたのでしょうか。ただ、

売れ残った版画集は銅板と共に1803年に王立銅版画院に寄贈され、作品自体は後世に受け継がれていくのです。『ロス・カプリチオス』はその名が示す通り、芸術家の自由な創造物として多くの人々を魅了し続け、19世紀を通じてゴヤの国際的な名声が確立される中、ドラクロワなど名だたる芸術家たちの重要な参照点となりました。当館が所蔵するモットは初版であり、かつ販売された当初の姿である革張りの装丁を保っています。また、イギリスのウエリントン卿旧蔵という来歴はこの作品の歴史的価値をさらに高めるものです。ウエリントン卿はスペインがナポレオンを相手に戦った対仏独立戦争（1808-1814年）の際、スペイン側に加勢したイギリスの指揮官であり、ゴヤは騎馬像など彼の肖像をいくつか手がけました。つまり、当館の所蔵作をゴヤが彼に手渡した可能性があり、総合的に判断して、世界的にも貴重な逸品なのです。

※長崎県美術館の基本情報については、裏表紙をご参照ください。

自慢の体験プログラム

その1

自然のままに観察！
自然を体験！

たびら昆虫館



園内の小川で棒を持って待っていると、トンボがとまった！

本園は1992年(平成4年)にオープンした体験型の昆虫観察自然園です。ここでは園内に生息している昆虫などの生物を、施設の解説員に説明してもらいながら観察することができます。

園内には生物写真や標本を見る事ができる昆虫館のほか、4つの観察ゾーン(池・水辺ゾーン、畑・花壇ゾーン、草・裸地ゾーン、林地ゾーン)があり、園内に生息している昆虫を

観察することができます。

昆虫館内の標本展示室では、職員の手作りによる園内に生息している昆虫の標本から海外に生息している昆虫まで、様々な標本を見る事ができます。標本を使ったクイズも用意されており、子供たちが興奮しながら標本を指差していました。

観察ゾーンでは、園内を解説員の解説を聞きながら散策することができます。園内には3000種



手作りの標本と職員の上白石さん

以上の昆虫が生息しており、四季折々に毎回違った昆虫を観察することができます。

また本園では不定期で様々なイベントを開催しており、夏休み中では木の実を使った工作教室、年末にはしめ縄教室など、自然の材料をもちいた季節感あふれる体験をすることができます。

五感を使って自然とふれあえる魅力いっぱいの自然園です。

解説員が園内で見つけた昆虫の説明してくれま



松ぼっくりで作ったクマの置物を手に、プイ！

自慢の体験プログラム

その2

珊瑚細工ば
体験してみんね！

有限会社 出口さんご
珊瑚資料館

今回訪れたのは、五島市の玄関口である福江港ターミナルからローカルバスに揺られて約40分の富江港沿いにある「珊瑚資料館」。本館は、工房見学のほか珊瑚のストラップやペンダント作成などの加工体験ができる施設です。また、独自の加工技術で施される「五島彫り」による美しい珊瑚細工の名品の数々が展示されています。

まずは1階の工房



専用の機械を使ってサンゴを研磨している様子



2階資料館に展示してあるサンゴ船の模型

で、珊瑚のストラップ作りを体験させてもらいました。事前に準備されている丸玉のサンゴを専用の機械で研磨していきます。サンゴは熱に弱いので、水で冷やす作業を怠ってはいけません。また、摩擦熱に注意しながら研磨する箇所を適宜変更する作業も重要です。複数の専用の機械を使用して、優しく大事に研磨していくと光沢が出てきます。自分好みの光沢が出てきたらストラップを取り付けて完成です。

ストラップ作りを体験した後は、2階の資料館に足を運んでみました。サンゴ船の模型の佇まいに興奮し、美しい珊瑚細工の名品の数々に心が奪われてしまいました。また、五島における珊瑚細工の歴史や世界のサンゴに

ら楽しめる資料館になっています。本館では修学旅行生の受け入れも行っているそうです。また、夏休みには子供の自由研究として親子で訪れる方々もたくさんいらっしゃるそうです。五島には海のレジャースポットや釣りなど遊べるスポットがたくさんありますが、ぜひ珊瑚資料館で珊瑚細工も体験してみてください。大切な人へのプレゼントや旅の思い出に、あなたも長崎県が誇る素敵な島「五島」で珊瑚細工を体験してみませんか。

ついて紹介がなされているコーナーもあるのですが、子供も大人も学びながら



白サンゴの展示物

五島における珊瑚の歴史

1886年(明治19年)に男女郡島沖で珊瑚曾根が発見されたことに始まり、富江町では珊瑚細工が栄えました。宝石用のサンゴは深海に生息しており、緻密な骨格を形成するため成長が非常に遅く最低でも500年~600年もの長い年月をかけて育つものでなければ宝石として使うことが出来ません。現在も珊瑚細工は五島が誇る伝統工芸となっています。

- 〒853-0202 五島市富江町松尾662番地1
- ☎ 0959-86-0613
- 🌐 <http://www.hira-shin.jp>
- 🕒 9:00~17:30
- 📅 年中無休
- 👤 小学生以上200円、小学生未満100円
- 👤 加工体験2160円
- 🅕 無料(普通車5台)



- 〒859-4823 平戸市市平町萩田免1628-4
- ☎ 0950-57-3348
- 🌐 <http://www.hira-shin.jp>
- 🕒 9:00~17:00
- 📅 月曜日・及び12月29日~1月3日(夏休み中は除く・月曜日が祝祭日の場合はその翌日)
- 👤 大人410[高校生以上](320)円
小中学生300(240)円
幼児[4才以上]150(120)円
※()内は20名以上の団体料金
- 🅕 無料

隠元禅師の足跡を辿る 黄檗文化交流

～日中国交正常化45周年、
長崎県と福建省との友好県省締結35周年記念事業～



福清市の万福寺における隠元禅師345年遠諱日中合同大法会



中国茶道披露

2015年(平成27)5月に中国の習近平主席が中日友好交流大会で、両国民の文化的歴史的つながりの象徴として、隠元禅師東渡(来日)を取り上げて以降、中国全土では隠元禅師の功績を顕彰する動きが本格化しています。同年11月に中村知事も、福建省福清市にある隠元禅師ゆかりの黄檗総本山万福寺(古黄檗)を視察したほか、2016年(平成28)には、長崎県と福建省の黄檗文化関係者が相互に訪問し、交流を深めました。

2017年(平成29)は、日中国交正常化45周年、長崎県と福建省との友好県省締結35周年記念すべき年で、長崎県と福建省の共催により、10月11日に福建省福州市において、「日中黄檗文化交流大会」を開催しました。日本側は、中村知事、八江県議会議長、隠元禅師「初登宝地」である興福寺の松尾法道住職等の長崎県内関係者、県外からも近藤博道黄檗宗管長猥下、徳川家広徳川記

念財団理事をはじめとする黄檗文化交流団が参加しました。中国側は、李紅中国人民政治協商会議福建省委員会副主席、王天明福建省人民政府外事弁公室主任、広智福清市仏教協会常務副会長等の皆さんが出席し、日中合わせて100数名が参加し、茶道交流、古琴演奏、少林武術の演舞、黄檗文化国際シンポジウムを開催しました。



中村法道長崎県知事及び八江利春長崎県議長らと福清南少林寺武術団との記念撮影

この大会において、隠元禅師の功績を称えたことは、本県にとっても、おそらく中国側にとっても大変意義あるものとなりました。

また、同日には福清市の万福寺において、同寺院の協力者である曹徳旺福耀玻璃集団董事長をはじめ、陳存楓福清市常務

委員・統戦部長、広智福清市仏教協会常務副会長、禅僧・檀家の皆さんなど100数名により、日本からの黄檗文化交流団が迎え入れられ、隠元禅師345年遠諱日中合同大法会も開催されました。

さらに、11月には日中(香港・マカオ・台湾含む)の著名なカメラマン20名により、長崎県内の黄檗寺院や長崎歴史文化博物館等で撮影が行なわれ、今後旅行誌や写真集にて広く長崎の黄檗文化が紹介される予定です。

これらの黄檗文化交流事業の実施にあたっては、福建ゆかりの華僑の皆様にも多大なるご協力をいただきました。

今後も、九州新幹線西九州ルートの開業を見据え、福建・長崎から黄檗宗大本山萬福寺が位置する京都までを結ぶ「隠元禅師の足跡を辿る黄檗文化交流」を支援していく予定です。



松尾住職による茶のお点前



左上:奥の丘上には一支国博物館の展望塔が見える、右上:集落の最も高い位置にある倉
左下:住居の中に再現された生活用具、右下:物見櫓(左)と小屋(右)

建物探訪

海上交易国家の 王都を再現

原の辻一支国王都復元公園
原の辻遺跡【国の特別史跡】

※資料の国宝にあたります。

老岐の幡鉾川流域に広がる平野・深江田原にある原の辻遺跡は、弥生時代から古墳時代の初め(今から約2200年〜1650年前)にかけての国内を代表する多重環濠集落跡です。三世紀末に記された中国の歴史書『三国志』の「魏志」倭人伝に記された「二支国」の王都として特定されている国の特別史跡(遺跡の国宝)で、わが国最古の船着き場跡や住居跡、海外交易を物語る土器、中国の銅銭、人面石など10万点以上の遺物(うち1670点は国重要文化財)が発見されていることから、弥生時代に海外交易の拠点として大いに栄えたと考えられています。

や外国との交流に関わった人々が活躍した場所と推定されています。この王都の姿を再現することを目指し、整備されたのが「原の辻一支国王都復元公園」です。復元整備にあたっては、発掘調査の成果を基に、盛り土して保存した遺構の真上に、当時の原の辻で使われた素材や技術に出来るだけ近い形で建物を復元するという方針が採用され、掘立柱建物や大型竪穴住居、一般竪穴住居、円形竪穴建物、大型方形壁立建物など17棟が復元されました。建物の内外には当時の生活状況を表す調度品や道具も配置されています。

原の辻遺跡の指定面積は約24ヘクタール。集落周辺の船着き場や複数ヶ所の墓域、水田を加えた遺跡全体の広さは約100ヘクタールにも及びます。丘陵の高い場所(中心域)は、一支国の王をはじめ、政治

公園内を散策して老岐の古代ローマを満喫する方法としては、①原の辻遺跡を見下ろす丘にある「老岐市立一支国博物館」で予習、②「原の辻ガイダンス」で当時の暮らしや古代技術を体験して、③「原の辻一支国王都復元公園」に足を踏み入れ

原の辻ガイダンス

- 〒811-5322 老岐市芦辺町深江鶴亀触1092-5
- 0920-45-2065
- 老岐市観光連盟 <http://www.ikikankou.com/>
- 8:45~17:30
- 年末のみ休館(12月29~31日)
- 無料 ※ただし古代技術体験料は別途材料代必要
- 無料(普通車34台、車椅子1台、大型バス2台)

原の辻一支国王都復元公園

- 8:30~日没まで
- 無料

老岐市立一支国博物館

※裏表紙参照

ること古代の一支国にタイムスリップ、というコースがおすすめです。

外海潜伏キリシタン文化資料館開館

外海地区とその周辺地域における潜伏キリシタンの歴史と文化的伝統について、関連資料を展示するとともに、信仰をはじめ社会状況や集落と生活のあり方などを調査研究し、その成果を公開するために、外海地区の住民らによる「外海文化愛好会」によって、2017年(平成29)3月に開館しました。地域で伝承されてきたオラシヨや「宝物」(マリア観音)等の貴重な資料が展示されています。

- 〒851-2326 長崎市下黒崎町5143番地(黒崎教会下)
- ☎ 090-2713-5259
- 🕒 9:00~16:00
- 📅 土日祝日開館、平日は要予約
- 👤 一般(高校生以上)200円、
団体(10名以上)160円、小中学生無料



《聖人像》中国もしくは日本製 個人蔵



「聖骨箱」16-17c頃/19c ヨーロッパ製

松浦市立水中考古学研究センター開設

2017年(平成29)4月、わが国における水中考古学のトップランナーと称される国史跡鷹島神崎遺跡及び鷹島海底遺跡の調査、研究、保存及び活用を図り、市民への理解と文化の向上に資することを目的に、「松浦市立水中考古学研究センター」が開設されました。自治

体としては初の設置となる水中考古学を専門とする研究機関です。あわせて「松浦市立鷹島歴史民俗資料館」、「松浦市立鷹島埋蔵文化財センター」が統合され、「松浦市立埋蔵文化財センター」に再編されました。

松浦市立水中考古学研究センター

- ☎ 0955-48-2744

松浦市立埋蔵文化財センター

- 〒859-4303 松浦市鷹島町神崎免146番地
- ☎ 0955-48-2098
- 🕒 9:00~17:00
- 📅 月曜(休日の場合はその翌日以降の最初の休日でない日)、12/29~1/3
- 👤 一般310円(240円)、小中高生140円(110円)
- ※()内は10名以上の団体



オープニングテープカットの様子

「大浦天主堂 キリシタン博物館」開館

大浦天主堂は、1865年に潜伏キリシタンがプティジャン神父に信仰を告白した、世界宗教史上の奇跡「信徒発見」の地として世界に知られています。その敷地内の旧羅典新学校(重要文化財)と旧長崎大司教館(県有形文化財)を活用して、「大浦天主堂 キリシタン博物館」が2018年(平成30)4月1日(日)に開設されます。日本におけるキリスト教の歴史(伝来・繁栄・禁教・弾圧・復活)が、さまざまな資料とともに紹介される予定です。



大浦天主堂とキリシタン博物館

- 〒850-0931 長崎市南山手町5-3
- 🕒 8:30~17:30(予定)
- 📅 年中無休
- 👤 一般1,000円、中高生 400円、
小学生 300円(大浦天主堂拝観料込)
- ※上記入場料については、20名以上団体割引有り

平成29年度「長崎の偉人 梅屋庄吉」読書感想文コンクール

2017年(平成29)11月19日、長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館において、平成29年度「長崎の偉人 梅屋庄吉」読書感想文コンクールの受賞者の表彰式を開催しました。

本コンクールは、中国の革命家・孫文を物心両面で支え続けた長崎出身の実業家・梅屋庄吉の功績を若い世代に伝えることを目的として、県が発行した児童書を課題図書として毎年開催しているものです。

4年目となる今年は、応募総数142作品(小学生の部57作品、中学生の部85作品)の中から、厳正な審査を経て、小学生の部10名、中学生の部8名が受賞となりました。

表彰式では、最優秀賞の佐世保市立福石小学校6年・福田和華さんと長崎市立伊王島中学校3年・水野隆星さんが作品の朗読を行いました。



中学生の部受賞者

小学生の部受賞者



新県庁舎の落成を記念した作品の寄贈

2017年(平成29)12月24日、長崎県の新県庁舎の落成式が執り行われました。新県庁舎完成を祝し、名誉県民・富永直樹氏と同じく名誉県民の松尾敏男氏の両御遺族より、それぞれ貴重な作品をご寄贈いただきました。当日には、両御遺族にもご出席いただき、式典中に作品のお披露目がなされました。



松尾敏男
《長崎旅情 下図》
2014年



富永直樹《アンデスの娘》1986年

千々石ミゲル墓所推定地発掘調査について

2017年8月から9月にかけて、千々石ミゲル墓所発掘調査実行委員会により、千々石ミゲル墓所推定地第3次発掘調査がおこなわれました。前2回の発掘調査結果をもとに、今回は墓域全体の発掘調査が実施されました。今回の成果として、キリスト教関連とも考えられる遺物やガラス片、さらには人の歯や骨が出土しました。これらの分析を経て、墓所には誰がどのようなかたちで埋葬されていたのか徐々にその真相が明らかにされつつあります。詳細については「旅する長崎学」ホームページ内(長崎学Web学会)コーナーをご覧ください。

●旅する長崎学HPアドレス <https://tabinaga/>



出土直後のガラス片、ビーズ



墓坑の発掘作業